

日本

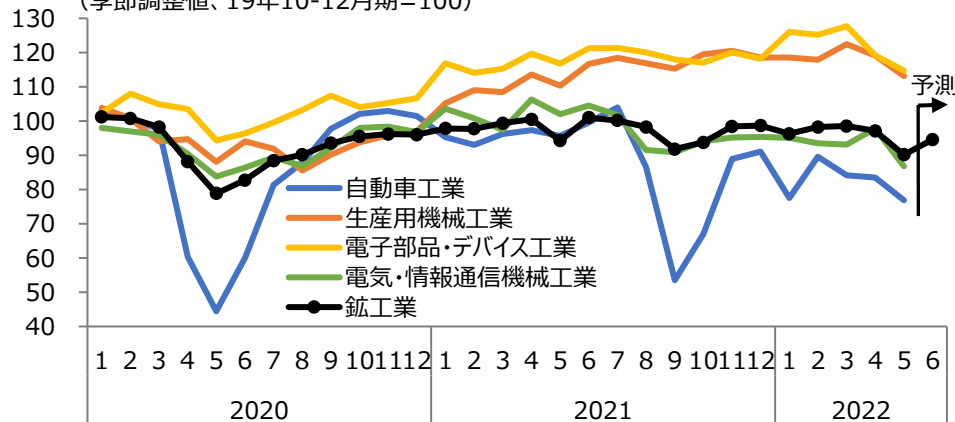
鉱工業指数（2022年5月）

生産は中国・上海ロックダウンにより大幅減

政策・経済センター  
堂本健太  
03-6858-2717

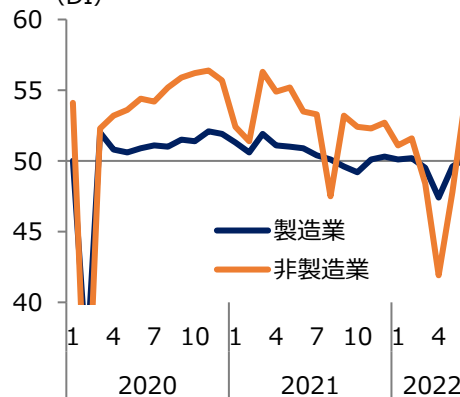
## 1 鉱工業生産指数（業種別）

（季節調整値、19年10-12月期=100）

注：予測は製造工業生産予測指数を経済産業省が補正した予測値で延長。  
出所：経済産業省「鉱工業指数」「製造工業生産予測指数」

## 2 中国PMI

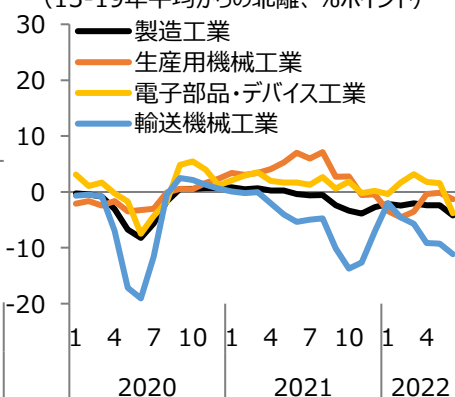
(DI)



出所：中国国家统计局

## 3 生産計画の予測修正率

(13-19年平均からの乖離、%ポイント)

注：前月時点の生産計画から当月計画への修正率。  
出所：経済産業省「製造工業生産予測指数」

## 評価ポイント

## 今回の結果

- 5月の鉱工業生産指数（季調値、速報）は、前月比▲7.2%と2カ月連続で低下した（図表1）。製造工業生産予測調査に基づく予測値（同▲0.5%、経済産業省補正済み）を大きく下回り、20年5月以来の大幅低下となった。
- 業種別では、自動車工業（同▲8.0%）、電気・情報通信機械工業（同▲11.3%）を筆頭に幅広い業種（全15業種中13業種）が低下した。中国・上海市を中心とするロックダウンによる部品供給の混乱が影響したとみられる。

## 基調判断と今後の流れ

- 生産指数は弱い動きが続いている。国内外の新型コロナ感染拡大やサプライチェーンの混乱が断続的に生産を下押ししている。
- 6月以降、生産は持ち直しに転じる見通しである。製造工業生産予測調査によると、6月の生産は前月比+4.9%程度（企業の予測値と実績値の平均的ズレを経済産業省が補正した値）の上昇が見込まれている。
- 上海市のロックダウンは6月1日に解除されており、中国の企業活動は段階的に正常化へ向かっている。6月の中国PMI（国家統計局）は、製造業、非製造業とも4カ月ぶりに中立水準の50を上回った（図表2）。生産・物流の再開により部品供給の混乱は徐々に緩和されるだろう。
- もっとも、持ち直しは緩やかなペースにとどまるとみている。生産計画は、21年後半以降、下方修正される傾向が強くなっており、自動車を含む輸送用機械工業でその傾向は顕著である（図表3）。6月入り後も国内大手自動車メーカーは、生産計画の下方修正を余儀なくされている。既往の半導体不足長期化等が背景にあり、早期の挽回生産は見込み難い。
- さらに、先行きは下振れリスクが大きい。①過度な金融引き締めによる米国経済の失速、②中国ゼロコロナ政策下のロックダウン再実施、③ウクライナ侵攻による欧州を中心とする世界経済の落ち込み、など特に海外経済の不確実性が高い。また、国内の電力需給ひっ迫が生産を抑制する懸念もある。